

ダチヨウの卵で ウイルス進入防ぐ

懸念される新型インフルエンザの大流行。ウイルスは主に、せきなどが出る飛沫で感染する。京都府立大の塚本康浩教授（動物衛生学）らがダチヨウの卵を使って、ウイルスの進入を防ぐ効果的なマスクを開発した。

普通のマスクではウイルスが通り抜けてしまう恐れがあり、医療用で高性能のN95マスクでは呼吸が苦しい。

そこで塚本教授らはウイルスを発見すると捕まえて、活動を止めてしまう働きを持つ「抗体」を染み込ませたマスクを開発。塚本教授らは抗体としてダチヨウの卵黄を選んだ。動物の血液やニワトリの

京都府立大 抗体で強力マスク開発

卵を使う方法に比べ、ダチヨウの卵の抗体は高品質で安定している上、ダチヨウは大きな卵を多く産むので費用も安く済むという。1羽は年に100個ほどの卵を産むが、一個で約8万枚のマスクを作ることができる。

塚本教授らは、新型インフルエンザに変異する恐れが指摘されている鳥インフルエンザウイルスに感染させたニワトリのひなを箱に入れ、その周囲で正常なひな18羽を飼育する実験も実施した。

箱を抗体なしのフィルタ1で覆った場合、3日間で半数の9羽が死んだが、抗体を含むフィルタ1で覆うと1羽も死ななかった。塚本教授は「マスクの効果は素早く確実だ」と話す。

抗体マスクは、ベンチャー企業クロシード（福岡県飯塚市）がN95と同レベルの医療用と、一般用の製品を発売した。

原則として1日1枚の使い捨て。一般用は1箱36枚入りで7560円。医療用は20枚入りで5880円。問い合わせは同社 ☎0948・29・1761へ。

京都府立大が開発したダチヨウの卵の抗体入りマスク。左が医療用で右が一般用（電通九州提供）

